



## 「キャンプに灯る希望の光」

伊藤 直樹

Naoki Ito

富士山YMCA運営委員長

### ▼YMCAキャンプとの出会い

1982年、関東学院六浦高校3年生時に、横須賀YMCA大学受験科に通っていました。これがYMCAとの出会いでした。横浜市立大学入学後は、横須賀YMCA進学科アドバイザーとして活動しました。当時、事務所の奥に休憩所で、スタッフやリーダー、専任講師、共に働く全ての人びとが集まり、交流を深めていく中で、健康教育部スタッフに誘われ、YMCA東山荘幼児キャンプや杉の里キャンプ場で行われた横浜YMCAキャンプリーダーとしての活動を開始しました。

## ▼YMCAキャンプとの出会い

キャンプに関する思い出で印象的だったことが3つあります。

一つ目は、横須賀・鎌倉・藤沢YMCA合同キャンプとして長野県霧ヶ峰高原（車山）高原荘に行った時のこと。オーナーの高橋さん（かつて、南極探検隊に料理のエキスパートとして随行した方）は「食事は、子どもたちの好き嫌いがある食べ物をおいしく作り、ひとつ克服して帰ってあげたい！」というモットーが記憶に残っています。

二つ目に、最終日のカウシルファイヤーにて霧ヶ峰高原キャンプの準備のさまざまな場面でやや協調性が心配されたある女性リーダーが受け持った班の中で知的障がいのある兄を思いやる弟の姿にメンバーみんなが感動してその班のまとまりが素晴らしく良くなったことを涙ながらに語っていたシーンにキャンプの可能性を感じました。

三つ目に横浜青年の酒井哲雄さんの「キャンプはYMCAである YMCAはキャンプである」という記事があり、ベトナム戦争で両親とも離れ離れになりボートピープルとして心を閉ざしていた二人の兄弟が日本のYMCAキャンプに参加し、他のメンバーとのキャンプ生活を通して心を開いていったことが紹介されていました。キャンプには人の心を癒す力があることを感じました。



また、リーダー活動で刺激を受けたのは、大学 2 年生の時に参加した「日本 Y M C A 同盟アジアスタディツアー」でのこと。タイ、ミャンマー、ビルマ、バングラデシュを訪問しました。

中でも、タイでは現地のユースリーダーとの交流がありました。タイのバンコク（首都）には当時多くのスラム（貧困街）があり、クロントイのスラムでバンコク Y M C A が社会開発活動を行っていました。バンコク Y M C A のリーダーの言葉に、「スラムの人たちの幸せが僕たちの幸せだから」「人の幸せを自分たちの幸せとを感じる」と人のために尽くし、働いているスタッフとリーダーの姿に感銘を受けました。



### ▼今後の Y M C A キャンプに期待すること

富士山 Y M C A 運営委員長として、富士山 Y M C A やキャンプの今後 100 年を見据え、夢を語ると、例えば、世界の紛争の大きな火種となっているパレスチナとイスラエルの子どもたちや青年たちを富士山 Y M C A へ招待し、一緒にキャンプをしてみたらどうでしょうか。キャンプ生活を共にすれば和解のきっかけとなり少しずつ平和を創る心が芽生えるのではないのでしょうか。

ファシリテーターは、横浜 Y M C A ユースリーダーだけでなく、全国のリーダーから募り、今を生きる若者にとっての貴重な体験の場をつくっていきたくて願っています。その経験をもとに世界を舞台に活躍する人材が育まれていくことを期待しています。



写真上：2007年5月 富士山YMCA献堂式で挨拶をする伊藤氏 写真下：2017年5月 富士山YMCA開設10周年

## Profile



1982年	横須賀YMCA大学受験科在籍
1983年	ユースリーダー、アドバイザー 横須賀YMCA運営委員 ユースリーダーシップ開発事業委員 富士山YMCA運営委員 特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート理事
1995年 ～2019年	横浜YMCA常議員 富士山YMCA運営委員長

【取材：横浜YMCA 村田彰宏】